

今日の説教のポイント<マタイによる福音書 18 章 1~5 節>

①マタイ 18 章のテーマ — 教会での兄弟姉妹の交わりのあり方

マタイ福音書 18 章に記されたイエス様の色々な教えは、全て「身近な人、特に信仰者となった兄弟姉妹」との交わりについてです。その先頭に出て来ている話が今日の話です。

②弟子たちもなかなか抜け切れなかった誘惑 — 人より偉いこと

弟子たちが、「いったいだれが、天の国で一番偉いのでしょうか」(1)と問いました。まだ「一番であること」に関心があることが分かります。神様が喜んで下さる者の一番になろうとするならいいような気がするかもしれません。しかし、イエス様が示された答えは意外なものでした。

③“子供のようになる”の真意 — 自力で生きていると誇るのではなく

イエス様が子供（幼子）の中に見出すように求められたものは何でしょうか？ 汚れがないこと、つまり、罪がない者となれということでしょうか？ 違います。聖書では、子どもは母の胎にある時から罪を犯す存在と考えられています（創世記 25 章 22 節）。むしろ、ここで考えるべきは、幼児は自力では生きられず、親に守られて初めて生きていける存在だということです。見るとするなら幼児のそのような面です。だから、「自分を低くして、この子供のようになる人が」(4)と言われたのです。

④“子供を受け入れる者は、私を受け入れるのである”の真意

さらに、そのような子供を受け入れる者は私を受け入れるのである(5)と主イエスは言われました。親に守られて乳を与えられなければ生きていけない幼児は無価値で足手まといになるとみなされる者の代表です。この時弟子たちはまだ分かっていません、自分たちこそが主を見捨てて逃げるどうしようもない存在であることを！ その彼らを主が赦して受け入れて下さったことを！

年の瀬、私たちも、今年もただただ神様に赦されて生かされた存在であることを覚え直したいと思います。その恵みに感謝しつつ、来年も兄弟姉妹として互いに受け入れ合って生きていきましょう！